

目 次

はしがき

1 章 序 論	I
1 民法とは	1
2 民法の歴史	2
3 民法の構造	3
4 私権の分類	5
5 民法の基本原則とその修正	6
6 民法の読み方	8
2 章 総 則 (1) 自然人・法人	10
1 民法総則の基本構造	10
2 自然人の権利能力	11
3 自然人の意思能力	12
4 自然人の行為能力	13
5 法 人	17
3 章 総 則 (2) 法律行為・代理・時効	21
1 法律行為	21
2 代 理	38
3 時 効	44
4 章 物 権 (1) 物権の意義と種類・所有権の内容	51
1 物権と債権の違い	51
2 物権の種類	55

- 3 物の意義 57
- 4 物権的請求権 58
- 5 所有権の内容 58

5章 物 権 (2) 物権変動…………… 61

- 1 物権変動という用語の意味 61
- 2 物権変動が生じる場合 62
- 3 法律行為による物権変動 63
- 4 物権変動の公示 64
- 5 公示されていない物権変動の取扱い 68
—公示の原則と物権変動の対抗要件
- 6 公示が間違っていたらどうなるか—動産の即時取得 72

6章 物 権 (3) 担保物権…………… 75

- 1 担保という用語の意味 75
- 2 抵 当 権 75
- 3 質 権 78
- 4 留 置 権 78
- 5 先取特権 79
- 6 担保物権の分類 79

7章 債権総論 (1) 債権の目的・債権の効力…………… 80

- 1 債権と債権法 80
- 2 債権の目的 82
- 3 債権の効力 87

8章 債権総論 (2)…………… 98

責任財産の保全・多数当事者の債権債務関係

- 1 責任財産の保全—債権者代位権と詐害行為取消権 98
- 2 多数当事者の債権債務関係 105

9章	債権総論（3） ……………	112
	債権譲渡・債務の引受けと契約上の地位の移転・債権の消滅	
	1 債権譲渡	112
	2 債務の引受けと契約上の地位の移転	115
	3 債権の消滅	117
10章	債権各論（1） 契約総論 ……………	122
	1 債権各論の意義と契約総論・契約各論	122
	2 契約トラブルと民法による解決	123
	3 契約法の基本原則	126
	4 契約の分類	128
	5 契約の成立	129
	6 契約内容の解釈・判断	131
	7 契約の効力	132
	8 契約の解除	135
11章	債権各論（2） 契約各論 ……………	136
	1 典型契約の意義	136
	2 贈与	139
	3 売買	139
	4 賃貸借	142
	5 消費貸借	144
	6 請負	146
	7 その他	148
12章	債権各論（3） 不法行為その他 ……………	150
	1 私たちの生活と不法行為	150
	2 不法行為の意義	150
	3 一般不法行為の要件	155

- 4 一般不法行為の効果 158
- 5 特別な不法行為 161
- 6 事務管理 164
- 7 不当利得 165

13章 親 族 166

- 1 はじめに 166
- 2 婚姻——夫婦関係の成立とその効果 167
- 3 婚姻の終了——離婚の要件と効果 171
- 4 親子（1）——実親子関係 174
- 5 親子（2）——養親子関係 177
- 6 親権・後見（保佐・補助）および扶養 178

14章 相 続 181

- 1 はじめに 181
- 2 法定相続 181
- 3 複数の相続人と遺産分割 183
- 4 相続人の不存在 184
- 5 遺 言 184
- 6 遺留分制度 186

索 引